わたししーらないっと。

羽根羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
わたししーらないっと。

【Ｎコード】
Ｎ１７５６ＢＡ

【作者名】
羽根羅

【あらすじ】
でもきっとなんとかなるって信じてる。

1

「大統領、もう決着は見えたかと」
「…そうだな」

『おい日本、そろそろ白旗をあげろ』

「武士道とはッ！　死ぬことと見つけたりィ！　お国のために！
神風隊、ケエッ！」

「馬鹿め…国民まで犠牲にするとは」
「このままでは日本が文字通りの焦土のみです。なんとかしないと」
「しかし肝心の日本があれではな」
「国民に罪はありません！」
「我々の預かる国民にも罪はない。戦争で疲弊しているのが日本だけだと思うな」
「…」
「残念だが助けてやれる余力が無い」

『最後通告だ。日本、降参しろー』

1（後書き）

二番煎じとか、この部分はおかしいとか。

2

「総書記、あいつら決着がついたみたいですよ」
「マジか。日本の負けか」
「はい。軍は全滅。無力な国民しか残っておりません」
「マジかあ。息子がデズニーランド行きたがってんだけどなあ」
「総書記、お電話です」

『もしもし？　あのさー、聞いた？』
『あ、中国さんチース』
『あいつらが日本の領土とっちゃうとぉ、ウチらが困るわけ』
『そうっすね。マジ困っちゃいますよ』
『日本は言わもずがな…いわがなずも？　なんだけどぉ、お互い疲れてると思うわけ』
『そりゃあ、やっぱヤバいんじゃないっすか？』
『うん、だからぁ、核ミサイル準備してた？』
『え？』
『核爆弾発射できるかって聞いたんだよハゲ』
『え？』
『えじゃねえよこのタコ。核弾頭こっそり用意しとけって言っただろ海荒らされてぇのか？　わざわざ荒らすような海ないけどコロすぞ』
『サァーセンでした！　急いで準備します』
『頼むからぁ、ね』
『ハイ』

3

「どうでした？」
「準備してねえってよ」
「おいおい…。大丈夫ですかね、間に合いそうですか？」
「時間的な問題はないけどぉ、やっぱ早い方が良いじゃん？」
「ですよねー」
「仕事効率悪すぎ。あいつ何考えてんだろ。ウチ、うまくやるように説明してたんだけど」
「世襲したからですかねー」
「いつの話だよ」

『もしもし中国さん』
『あ？　なんだ豚』
『どこに撃つんですか？』
『日本の領土取られたくねーッて話したばっかだろうがよぉこのタコ！　コロされてーのか！』

4

「おこられた」
「でも目標地点だいたいわかりましたね。何発撃ちます？」
「手持ちの半分くらい？」
「日本にですか？」
「日本じゃねーって。話きーてたのかコラ」
「え？　日本じゃないんですか？」
「え？　そういわれると不安になるんだけど…」
「確認してくださいよ」
「またおこられんのー？　嫌だよ」
「じゃあどこを狙わせれば良いんですかぁ～」
「あー、もー！　仕方ないなあ！」

『もしもし？　日本でいいんすか？』
『んなわけねーだろ豚野郎！』

5

「大統領、あの国またなんか実験って言って危ないことしてますよ」
「何をしてるか推測できるか？」
「恐らくあれは核弾頭だとの見方が強いですね。今正確な情報を調べているところです」
「迎撃の準備だけしておけ」
「わかりました」

『おい。なにやってんのか詳しく説明しろ』
『別になんでもないし』
『いいから説明しろ』
『なんでもないって』
『説明しろ』
『ほんとなんでもないんだって！』
『とにかく説明しろ』
『なんでそんなにしつこく聞くの！？　なんでもないって言ってるじゃん！』
『国民が不安がっている』
『情報規制もできねーのか遅れてんな！！』

6

「どうしようばれてる」
「マジですか」
「マジ」
「どこまでばれてるんですか？」
「まだ疑われてるレベルだと思う」
「じゃあまだ大丈夫ですね」
「そうかな？」
「そうですよ」

『この前はキレてごめん、あんまり疑うからいけないんだからね？』
『で？』
『絶対に迷惑はかけないから気にしないで』
『直ちに中止しろ』
『えっ、ちょ』
『繰り返す、直ちに中止しろ』
『おっ、お前らからそんな命令される権限ないし！』
『各国迎撃体制が整っている…命令される権限？』
『衛星実験だから邪魔だけはすんなよ！』
『核ミサイルであることはわかっている』
『ちち違うし！　なんでだし！』

7

「どうしようばれてる」
「どうしました？」
「だからばれてるんだって」
「マジですか」
「マジ」
「どこまでばれてるんですか」
「全部」
「全部！？」

『やばいよー中国さん、やばいってぇ～』
『はあ？　やれよ』
『ほんとやばいんですってぇ』
『いいからやれっつってんだろ？　あとは何とかしてやっから』
『でも…』
『は？　お前絶交な。もうウチにメールとかしてくんな。きても無視すっから』
『あっ、勘弁して下さいよ中国さんしか友達いないんですから！』
『しらね。切るわ、じゃーな』
『あっあっ、はい！　わきりました！』
『あ？　脇？　つーか別に良いって』
『やりますやります！　やらせて下さい！　是非やらせて下さたぁ！』
『ヤらせろとかマジキモいんだけど』

8

「総書記？」
「発射ァ！」
「そんないきなり」

『もっしー。撃ったった』
『確認した』
『キてるぜぇー、キちまったぜぇ』
『迎撃ミサイルとは大西洋中でぶつかるようにしてある』
『はー！？　急遽、太平洋側に向けてやったし！』
『あっ！？　ちょっ、ばっ！』
『ざまあぁ見ろ』
『だが残念だったな、ちゃんと部隊は展開してある』
『あ？　どのくらい？』
『どのくらいって…。…！？』
『全部撃ち落とせるかなぁー？　それも太平洋上で？』
『クッ、別に国の反対端にいようが迎撃はできる！』
『なんで太平洋側だけなの？』
『そんなまさかッ！』

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1756ba/

わたししーらないっと。

2012年1月9日02時47分発行